

# 大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 立命館大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-I CAMPUS Asia Pilot Program))

東アジア次世代人文リーダー養成のための、日中韓共同運営トライアングルキャンパス

【プログラムの目的・養成する人材像】

日中韓の言語に長け、その文化・文学・歴史等に深い理解力を有し、そこに横たわる諸問題を人文的知見から洞察・分析して具体的な解決を図り、日中韓を舞台とする企業、公共機関等で活躍できる国際的リーダーの育成を目指します。

【構想の概要】

H15年以降築いてきた広東外語外貿大学(中国・広州、以下 広東外語外貿大)・東西大学校(韓国・釜山、以下 東西大)とのネットワークを基に、各国でパイロット学生を選抜し、移動型キャンパスを核とした4年間のカリキュラムを共同運営します。

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

### ○ パイロット・プログラムの振り返りと常設化プログラムの枠組形成

H28年度からの常設化に向けて、実務者会議等を通じ、三大学で現行のパイロット・プログラムの振り返り、その結果を基に常設化プログラムの枠組みやカリキュラムを検討しました。

### ○ 第1回外部評価委員会および三大学教職員合同会議の開催

H26年11月とH27年4月に三大学教職員合同会議を開催するとともに、6月には本学で第1回外部評価委員会を開催し、H25年度の取組みを中心に委員から評価を受けました。

### ○ 到達度アンケート実施と専門家による効果検証

H26年8月とH27年4月に3・4回目のアンケートを実施するとともに、1・2回目の結果を学生たちにフィードバックしました。また、多言語学習や国際教育研究等の観点から、それぞれの分野の専門家が本事業の効果測定・検証を行っており、今後は学際的な共同研究も視野に入れて進めていく予定です。

## ■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈学生交流会の様子〉



### ○ 移動キャンパス2年目と海外インターンシップの実施

移動キャンパスの2年目を各国で滞りなく実施するとともに、H26年12月には本学学生のインターンシップを中国・韓国で行い、H27年にも3月から5月に中国で、6月から8月に日本と韓国で、それぞれ実施して学生を相互に派遣しました。

### ○ 名古屋大学・岡山大学との合同学生交流会実施

H27年2月に名古屋大学・東山キャンパスにて、名古屋大学・岡山大学と合同で学生交流会を実施し、各大学に留学中の学生も含めた、70名以上の学生が参加しました。

### ○ 常設化合意書の締結、高大連携プログラム・高校訪問を通じた広報

H26年7月に三大学の学長・総長が集まり、H28年度から本プログラムを常設することを定めた合意書に調印しました。これを受けて、11月には高大連携プログラムの一環で現役高校生を本学に招き、H27年5月からは全国の高校50校あまりを訪問して、プログラムにおける学びや、中国語・韓国語の既修者を対象にした新AO入試制度について広報しました。

## ■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

「移動キャンパス2年目・3学期」で10名、「日・韓・中連携講座 春季集中講義」で22名の学生を東西大へ派遣しました。また、「海外インターンシップ」で中国・韓国へ各5名ずつ、計10名を、修士複数学位制度では広東外語外貿大へ1名を派遣しました。

### ○ 外国人留学生の受入れ

「移動キャンパス2年目・2学期」で計20名、「日・韓・中連携講座 夏季集中講義」で計30名の学生を受け入れました。加えて、修士複数学位制度で広東外語外貿大から2名、東西大から1名の院生を受け入れました。

	H23	H24	H25	H26	H27
日本(J)での受入		C40,K34	C26,K25	C24,K29	C30,K25
中国(C)での受入	K20,J16	K25,J29	K22,J44	K7,J6	K25,J25
韓国(K)での受入		J41,C33	J22,C10	J37,C26	J5,C5

注) H23~H26は実績、H27は計画。

## ■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

### ○ 修士複数学位制度(DMDP)協定書の締結

H26年2月に本学と東西大の間でDMDPの協定書が締結され、三大学の相互派遣を可能とするDMDP制度が構築されました。

## ■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

〈国際フォーラム 学生発表の様子〉



### ○ 「日中韓キャンパスアジア国際フォーラム」の開催

H26年7月に大阪・国際交流センターで国際フォーラムを開催し、延べ1,000名近い来場者を集めました。フォーラムでは基調講演に加えて、学生たちの成果発表のほか、三大学の学長・総長らによる「多文化協働型のアジア人材育成への課題と挑戦」をテーマにしたパネルディスカッションを開催し、本プログラムの成果を広く発信しました。

### ○ 「東アジア・グローバルリーダー育成プログラム」の新設

本事業の成果を踏まえ、SGUの取組の一環として本学と淡江大学(台湾)、慶熙大学校(韓国)が連携し、移動キャンパス型の新プログラムをH28年4月からの予定で実施することとなった。